

## 2015年度 日本文化人類学会

### 第5回理事会 議事録(案)

日時：2015年11月14日(土) 14時～18時30分

場所：上智大学 四谷キャンパス 2号館6階 2-603

<出席者> 関根、赤堀、池田、石田、上杉、太田、岡田、春日、亀井、岸上、窪田、栗田、桑山、  
湖中、田中、名和、真島、松田、松村、山本

<委任状提出> 慶田、瀬川、和崎

#### [承認事項]

1. 2015年度第4回理事会議事録
2. 新入会員(24名)につき、総務会で入会を承認したことを報告の上、事後承認。

#### [報告事項]

1. 庶務理事報告
  - ・2015年度朝日賞(人文)候補者の推薦を行ったことを報告。
  - ・学会より共同利用・共同研究拠点の継続申請についての要請書を送付した東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターより、次期拠点の認定更新はされないことになった旨連絡があったことを報告。
  - ・第27回評議員選挙の選挙管理委員会が発足したこと、第1回選挙管理委員会が10月24日に開催され、選挙日程、会員調査の日程等が決定したことを報告。
  - ・学会費未納4年目の会員に対して2015年12月31日までに年会費納入ないし正式な退会手続きのいずれかの手続きをとらない場合には退会処理を行う旨を本年度会費請求時に通知済みであることを説明の上、今年度末で退会処理を行うことを確認。なお、12月中旬に学会費未納4年目の会員にメールで退会意思の確認及び会費納入依頼を行うこととした。
  - ・第5回三島海雲学術賞推薦候補者の受付を7月15日(消印有効)に締め切り、選考を実施した上で、推薦を行ったことを報告。
  - ・第11回学会賞授賞候補者について評議員会からの推薦結果を選考委員長へ送付したこと、学会賞選考委員へ委嘱状を発送することを報告。
2. 会計理事報告
  - ・第49回研究大会準備委員会より補填金残額の返金があったことを報告。
  - ・学会主催公開シンポジウム(於金沢)が11月8日に実施され、平成27年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)(研究成果公開発表B)の実績報告書提出に向けて会計処理を進めていることを報告。
  - ・事務局室の現行コピー機のメーカーにおける部品の保管期間が12月に終了するため、総務会で検討の上、11月より新たなコピー機を導入し5年間のリース契約を結んだことを報告。
3. 総務理事報告
  - ・人類学関連学会協議会合同シンポジウム(於関西学院大学、日本民俗学会担当)が10月10日に開催され、本学会から会長が出席したことを報告。会長より、日本民俗学会の年会の一般研究発表の時間帯であったため参加者が少なく、プログラムの設定については今後検討が必要であることが報告された。
  - ・学会主催公開シンポジウム(於金沢)が11月8日に開催されたこと、広報の方法について今後検討が必要であることを報告。
  - ・平成28年度滋澤民族学振興会民族学振興プロジェクト助成の申請書を提出し、採択内定通知が届いたことを報告。
  - ・平成28年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)(研究成果公開発表B)の計画調書を提出したことを報告。
4. 広報理事報告
  - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき24件のJASCA-INFO配信を行った

ことを報告。

- ・7月に開催されたJ-STAGE説明会には申込の時点ですでに満席だったため出席できなかったこと、当日配布された資料はすでにHPから取得済みであることを報告。

## 5. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：80巻3号の進捗状況を報告。10月18日開催の委員会において、年間3号体制への移行の可能性について検討を行った結果、当面現状と同じ4号体制で刊行を続けるのが適当であるとの結論に至ったことを報告。投稿論文におけるオープンレビュー（査読者について投稿者の希望を受け付ける）についても検討を行った結果、査読候補者の範囲を広げるメリットがあるため今後理事会で検討を行ってはどうかとの提案がなされた。また、年配の人類学者へのインタビューについて、候補者の検討を行ったことを報告。
- ・JRCA編集委員会：Vol. 16の進捗状況を報告。掲載予定の特集「ルース・ベネディクト『菊と刀』の与えるもの」（『民族学研究』14巻4号、1950年）の翻訳論文は予算の都合上、今回は予定の半数の論文を掲載予定であること、今年度の国際シンポジウムの講演内容を掲載予定であることを報告。
- ・「国際情報発信強化」特別委員会：平成28年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「国際情報発信強化(B)」の計画調書を提出したことを報告。来年度以降のJRCA年間2号体制や国際編集委員等の計画実施については、次期編集主任へ十分な申し送りを行う必要があることを確認。また、委員会において規定等の予想される問題点を洗い出し、必要に応じて次回以降の理事会で議論を行っていくこととした。
- ・国際化・グローバル化対応委員会：次の7点が報告された。
  - ① WCAA がクォーターリニューズレターのオンラインでの刊行を開始したことを報告。各委員会で学会から世界へ発信したいことがあれば英訳して積極的に寄稿してほしいとの要請がなされた。
  - ② IUAES 中間会議（2016年5月8-9日、於クロアチア）において、WCAA でパネルを組むため積極的に参加するよう要請がなされた。
  - ③ 2015年11月のAAA会期中に開催されるWCAAの会合へは山本理事が出席する予定であることを報告。
  - ④ 2015年7月に開催されたWCAA会議（於バンコク）に出席したことを報告。会議に議事録に基づき会議の概要を説明。
  - ⑤ ウェンナー・グレンがPresidentを募集していることを報告。
  - ⑥ IUAESの会費に関する回答書を報告。
  - ⑦ WCAAとIUAESの合併または組織の連携協力に関する議論について報告。
- ・課題研究懇談会担当委員会：欠席の慶田理事に代わり松村理事より、1月14日〆切で新規課題の募集を行うこと、募集案内をJASCA-INFOで配信する予定であることを報告。
- ・研究発表査読委員会：第50回研究大会の発表要旨査読を例年通り行うことを報告。
- ・地区研究懇談会：各地区の研究会開催状況、開催予定を報告。
- ・倫理委員会：1月25日に委員会を開催予定であることを報告。
- ・学会賞検討委員会：次期理事会への申し送り事項として改革案を作成し、次回理事会に提出予定であることを報告。
- ・次世代育成セミナー実施運営委員会：11月7日に東日本で次世代育成セミナーが開催されたことを報告。

## 【審議事項】

### 1. 学会誌表紙デザインの変更について

- ・田中理事より、編集委員会内での検討及びブックデザイナーを交えての検討を行った結果、①高度に抽象化した形でデザイン的に資料写真を使用する、②号または巻毎に若干のヴァリエーションを導入する、の2点が提案された。これに対し、デザイナーに不測の事態が起こった時どう対処するか、数年後のヴァリエーションへの対応はどうなるのか等を前もって契約で明らかにしておく必要があるとの意見が出され、審議の結果、実際のデザイン案が出されてから、ヴァリエーションを付けるかどうか、ヴァリエーションを付ける場合巻あるいは号毎のどちらにするか等を含め、具体的に検討することとした。編集委員会及びデザインWGはデザイナーに本日の審議結果を伝えた上で作業を進めること

- を確認した。
- ・田中理事より、資料に基づき、文字部分の構成案が説明され、意見交換が行われた。特に、新しく裏表紙見返しに『文化人類学』刊行の趣旨を掲載することとその文案が提案され、審議の結果、刊行趣旨を掲載すること、デザインの際にそのスペースを確保しておくことが承認され、内容については掲載に向けて検討を行うこととした。また、構成案及び刊行趣旨について意見がある場合には総務会へ連絡することとし、修正提案があった場合には次回理事会で審議することとした。
2. 学会法人化について
    - ・山本理事より、今後のスケジュール案、定款作成の骨子、問題点について説明がなされ、資料に基づき意見交換を行った。本件については、委員会内で次回理事会に向けて引き続き検討を行うこととした。
  3. J-STAGE サービス利用申込みについて
    - ・栗田理事より、J-STAGE サービスの利用申込書への記載内容について総務会原案の説明があり、審議の結果、①『文化人類学』の J-STAGE へのデータ搭載体制に関しては学会内で対応すること、②『文化人類学』の J-STAGE への搭載は刊行と同時にするが 36 ヶ月の認証期間を設定すること、③JICA の J-STAGE 搭載は刊行と同時にし、認証機能は使用せず、現行のオープンアクセスを継続すること、の3点が承認され、この結果に基づき利用申込書を提出することとした。
  4. 国際シンポジウムについて
    - ・桑山理事より、国際シンポジウム（12月12日開催、於首都大学東京）の JASCA-INFO 配信文案について説明があり、審議の結果、承認された。
    - ・シンポジウムでの講演のため香港から招聘する会員のゴードン・マシューズ氏への謝金の支払いを特例として認めるよう提案があり、審議の結果、承認された。
    - ・シンポジウム経費については、事前に国際シンポジウム担当理事へ概算払いを行うことが承認された。
    - ・広報については、今後さらなる検討が必要であることを確認した。
  5. 会費体系の見直しについて
    - ・赤堀理事より、通常会員会費 11,000 円、減額対象会員会費 6,000 円とする総務会の会費改定案について、算定式や会費収入増加見込み表を提示の上、主に減額対象会員への措置と長期にわたる学会経常収支の赤字への対応が金額設定の根拠であるとの説明がなされ、審議の結果、総務会提案に沿った形で進めることが承認された。
  6. 事務局職員の雇用について
    - ・事務局職員の更新について、雇用に関する申し合わせを確認のうえ、雇用更新を承認した。
  7. 澁澤賞選考委員の推薦について
    - ・松村理事より、任期満了に伴う平成 28 年度澁澤賞選考委員会の委員長・委員の推薦依頼があったことが報告され、委員長と新規委員推薦に関する総務会案が承認された。
  8. 日本文化人類学会旅費規程の改定について
    - ・赤堀理事より、「日本文化人類学会派遣による用務に伴う旅費の支給について(内規)」の「日本文化人類学会旅費規程」への改訂案(旅費の算定に際し、これまでの当該出張者の本務先の規程を基準とする算定方法から、会計担当理事の本務先が規定する旅費基準による算定方法へと変更)が提出され、文言調整の上、承認された。
  9. 『文化人類学会』掲載の学会収支状況報告について
    - ・赤堀理事より、『文化人類学』の学会通信へ掲載する学会収支状況報告について説明があり、意見交換の後、掲載文案を次回理事会前に理事 ML で配信し、次回理事会での審議を経て、80 巻 4 号へ掲載することとした。
  10. その他
    - ・学会 50 周年記念事業準備委員会の業務が終了したことを確認し、同委員会を解散することが承認された。
    - ・栗田理事より、大学院生協議会からアンケートへの協力依頼(アンケート周知依頼)があり、若手支援 WG での検討結果を受けて、総務会で承認の上、JASCA-INFO で配信を行ったことが報告され、事後承認された。
    - ・田中理事より、崔吉成先生のインタビューに赴く編集委員の旅費について学会会計(学会誌刊行費)からの支出することが提案され、審議の結果、承認された。

- ・岸上理事より、第 50 回研究大会における学会の記念企画の有無について質問があり、本件については会長が準備委員会に直接連絡をとることとした。
- ・第 6 回理事会は 2016 年 2 月 14 日（日）@関西学院大学 東京丸の内キャンパス。

以上